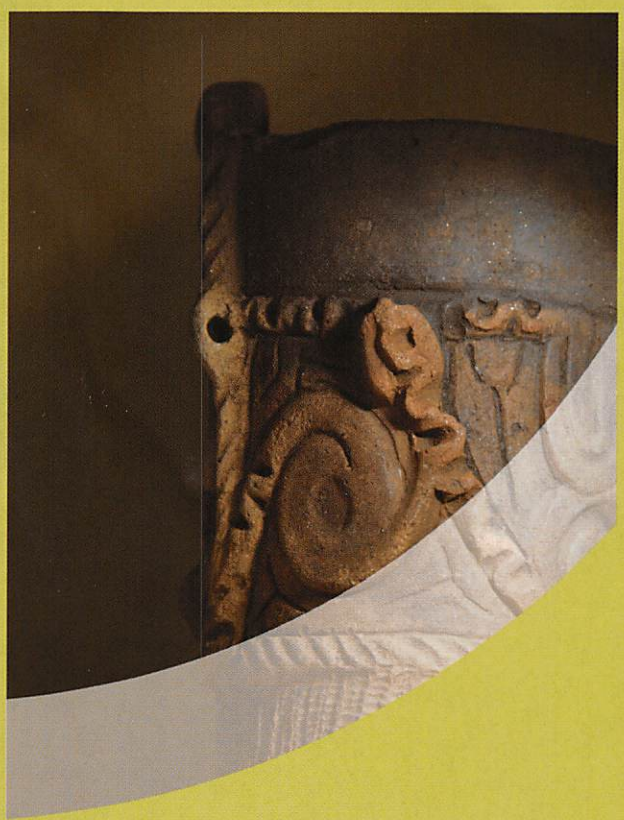
国史跡

下野谷遺跡
（したのやいせき）



西東京市教育委員会

市街地の地下に眠る縄文時代の大集落

下野谷遺跡を北の空からのぞむ（2007年撮影）

新宿から電車で30分もかからない市街地、東京都西東京市東伏見2、3、6丁目に、今から約4,000～5,000年前の縄文時代中期に長期間、継続して営まれた大集落跡、下野谷遺跡があります。

西東京市は、近郊農村や青梅街道沿いの町場などとしての多様な歴史をもち、戦後は、都下のベッドタウンとして発展したまちで、2001年に保谷市と田無市が合併し、誕生しました。

市の東南端に当たる東伏見地域には、公園や早稲田大学のグラウンドなどが石神井川に沿って存在し、航空写真では、それらの緑が都会のオアシスのように見えます。この地下に、縄文時代の大集落跡が眠っています。

地下を発掘すると、何軒も重なった住居の跡や大量の土器や石器などが出土します。青梅街道の間際まで住居の跡は見つかっており、今後の調査によっては、青梅街道の南側まで遺跡の範囲が広がる可能性もあります。

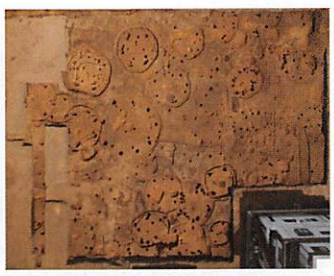
戦前から、畑の耕作などの際に、縄文土器のかけらなどが多く見つかることが知られていましたが、正式には1950年、吉田格氏により「坂上遺跡」という名称で初めて紹介されました。

その後、長く調査が行われることはありませんでしたが、高度成長期に遺跡周辺にも開発の波が押し寄せると、研究者や学生、地域住民の中に遺跡消滅の危機感がつのります。そこで、瀧澤浩氏を指導者に「むさしの台地研究会」が結成され、当時の保谷市へ働きかけ、1972年の予備調査を経て、1973年、遺跡を保護するために必要な、内容や範囲の調査を目的とした初の本格的な発掘が実施されます。

下野谷遺跡とその周辺

調査が重ねられる中で、縄文時代の大集落の存在が徐々に明らかとなり、1975年には旧字名をとり「下野谷」遺跡と名称が変更されます。その後は、開発に伴う調査なども多く実施され、遺跡の一部は失われていきましたが、膨大な出土品やデータが記録、保存され、報告書にまとめられています。

下野谷遺跡公園



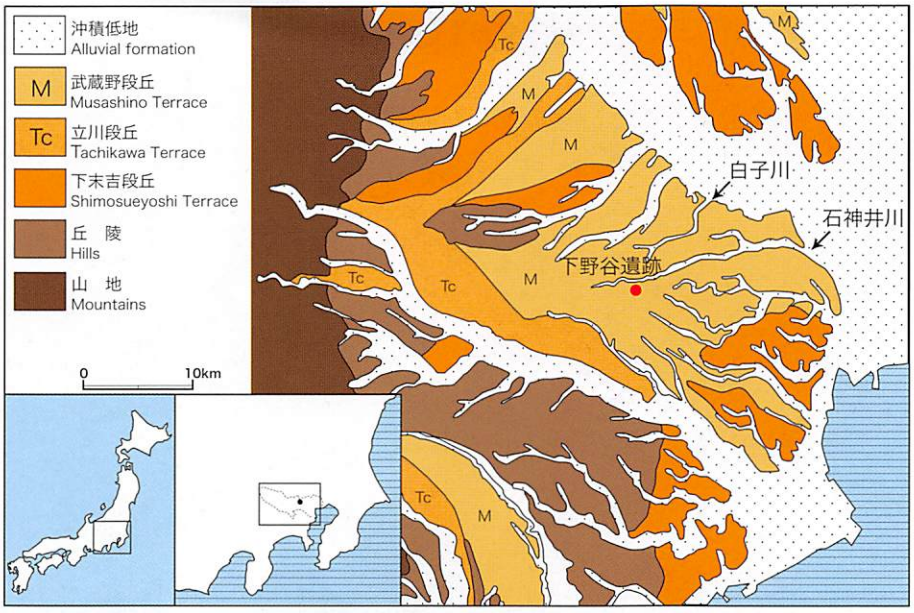
発見されたムラの一部（東集落：第19次調査）

2007年には、遺跡の保護のため、西東京市が一部を公有地とし、国の土地と合わせ、下野谷遺跡公園が開園しました。公園を活用した遺跡の周知活動などには、市民も積極的に関わり、保護の気運が醸成されてくるとともに、保存を目的とする発掘調査が続けられ、遺跡の内容が明らかになり、都市部に良好に残された南関東最大級の縄文時代中期の大集落跡として2015年3月、国の史跡に指定されました。

第1次調査風景（1973年）

大量の土器が出土

大集落を支えた豊かな水とみどり



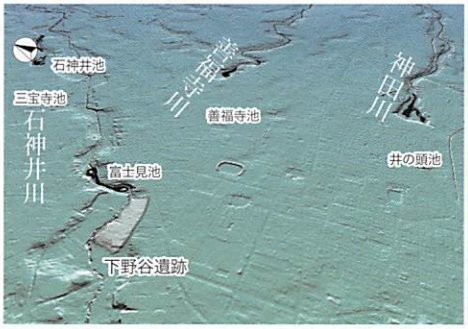
武蔵野台地の地形と下野谷遺跡の位置

下野谷遺跡のある西東京市は、武蔵野台地のおおよそ中央に位置しています。武蔵野台地は、西に位置する関東山地からの水の流れが造った扇状地で、東に流れ東京湾に注ぐ河川や、北に流れ荒川に注ぐ河川が谷を刻んでいます。

特に標高 50 ～ 60mには、湧水の湧き出しやすい地点が続き、石神井池・三宝寺池、井の頭池、善福寺池など、多くの池や沼があり、河川の谷頭になっています。

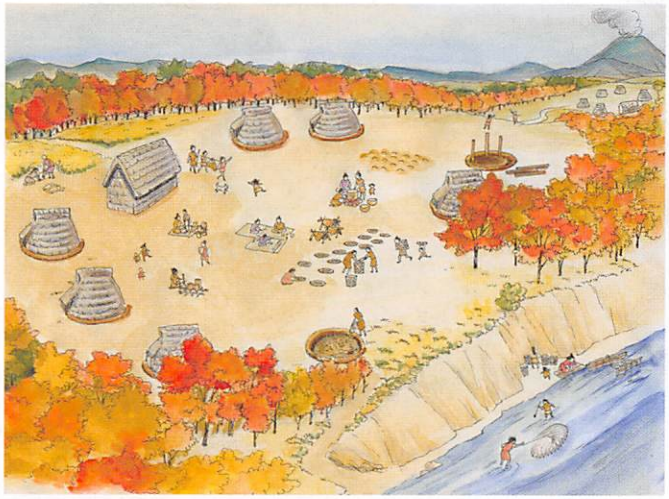
西東京市内には、石神井川と白子川の 2 本の河川が流れており、下野谷遺跡は石神井川に面する南側の高台から低地にかけてひろがっています。

遺跡の標高は 51 ～ 59mで、遺跡の東側に隣接する練馬区立武蔵関公園にある富士見池は、湧水でできた沼を人工的に整備したものです。



武蔵野台地を流れる河川と下野谷遺跡の立地

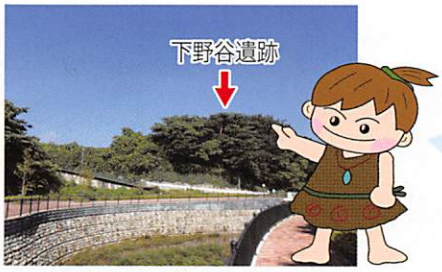
クリ（左）クルミ（右）いずれも現生種
（下野谷遺跡公園にて撮影）



氷河期(ひょうがき)が終わり、縄文時代になると日本列島には今と同様の四季がみられるようになります。したのやムラの秋の1日を想像してみました。
(作画：森生文乃)

下野谷遺跡の縄文時代の集落は日当たりのよい広い高台の上にあり、約7m下を流れる石神井川の北側は、今は早稲田大学のグラウンド等になっていますが、昭和初期までは、葦が茂り、ホタル舞う湿地でした。縄文時代中期には、湧水も豊富で、石神井川の水量も今より多く、低地には沼があった可能性もあります。台地上にはクリやクルミなどの落葉広葉樹の森が広がっていたことでしょう。このような水とみどりに恵まれた土地は、採集や狩猟を生業の柱としていた人々にとっては絶好の生活の場であったと考えられます。

こうした恵まれた環境の下、南関東最大級の縄文時代集落跡が残されました。



西武新宿線東伏見駅から下野谷遺跡公園まで歩いてみましょう。縄文時代の人々が生活の場として好んだ地形がとてもよくわかります。そのあとは石神井川に沿った遊歩道で、武蔵関公園や都立東伏見公園へ。運が良ければカワセミ親子にも出会えますよ。

下野谷遺跡の基本データ

所　　在　　地：東京都西東京市東伏見2・3・6丁目地内　北緯35度43分31秒　東経139度33分42秒（遺跡中央付近）

面　　積：約134,000㎡

立　　地：武蔵野台地中央　標高 約51～59m（低地部 約51m　台地部 約56～59m）石神井川に南面する台地～低地

発見された主な遺構：礫群（旧石器時代）・炉穴（縄文時代早期）・陥し穴・竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・ピット・畝（近世）・建物礎石（近代）など

（　）のないものは主に縄文時代中期

主体となる時期：旧石器・縄文（早期・中期中葉～後葉）・近世・近代

特　　徴：縄文時代中期の南関東最大級の環状集落（西集落：直径約150m　東集落：東西約300m×南北約180m）
集落を構成する主な遺構　住居跡400軒以上、掘立柱建物跡20基以上、土坑1,000基以上（東西両集落計）
集落の存続期間　五領ヶ台式期～称名寺式期（中心は勝坂式期～加曽利E式期 今から約4,000～5,000年前）
西集落は2015年3月10日に国史跡に指定。2016年3月1日に追加指定。2017年2月9日追加指定。

（基本データは2017年3月31日現在のもの）

下野谷遺跡の歴史年表

30000年前	旧石器時代	立川ロームIX層から石器が出土。
27000年前		石器を作った跡や石蒸し料理の跡（礫群）多数 旧石器時代をとおして、たびたび利用されていた。
16000年前	縄文時代 草創期	
9000年前	縄文時代 早期	動物をとる陥し穴 火をたいた跡（炉穴）150基以上
6000年前	縄文時代 前期	
5000年前	縄文時代 中期	環状集落 したのやムラ
4000年前	縄文時代 後期	人々の行動の跡が少なくなる。
2300年前	縄文時代 晩期	
紀元後	弥生時代	＜以後、中世まで武蔵野の原野（あし原や林）が広がる。＞
2世紀頃		
14世紀頃	古墳～中世	対岸の下柳沢遺跡（しもやぎさわいせき）に地下式壙（ちかしきこう）＝お墓？多数
16世紀末		上保谷村ができる。
1600年	近世（江戸）	低地部に田畑の跡 田畑として開拓される。
1868年		
1889年	近代（明治・大正・昭和・平成）	保谷村ができる。
1943年		中島飛行機武蔵製作所の工員寮ができる。
1945年		第二次世界大戦終結
1967年		保谷市ができる。
1973年		下野谷遺跡 第1次調査
2001年		田無市と合併し西東京市となる。
2007年		遺跡公園ができる。
2011年		下野谷遺跡 第22次調査
2015年		国史跡に指定される。

＊年表の長さは、時間の長さと異なります。

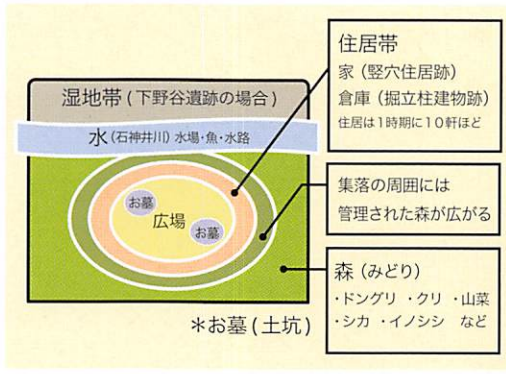
＊1…国史跡指定範囲
（2015年3月10日 史跡指定）
（2016年3月1日　追加指定）
（2017年2月9日　追加指定）

大集落の出現と終焉

下野谷遺跡の縄文時代中期の集落は、墓域と考えられる土坑*1群のある広場を、竪穴住居跡*2や掘立柱建物跡*3が囲むように並ぶ、「環状集落」と呼ばれる、この時期に典型的な構造を持っています。さらに、こういった環状集落が、谷を挟み東西に複数存在しています*4。このような例はとても少なく、「双環状集落」と呼ばれ、大規模で拠点となる集落にみることができます。

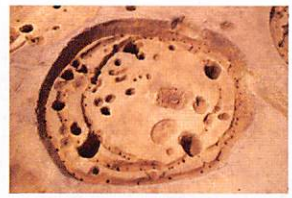
縄文時代中期には、遺跡の数が爆発的に増加します。このことは特に東日本で顕著です。また、下野谷遺跡のような数百軒もの住居が発見される大集落跡が出現します。ただし、数百軒の住居は、同時期に存在していたわけではなく、一定の場所に長期間集落が繰り返し営まれた結果、多くの住居跡が累積して残されたものです。

下野谷遺跡の場合は1,000年近い長期間にわたり、人々の生活が営まれていました。



縄文時代中期のムラのイメージ

＊1…土を掘り込んだ穴
＊2…床面を掘り込んだ建物
＊3…床面を掘り込むことなく建てられた建物
＊4…全く同時に複数の集落が存在していたかどうかはわかっていません

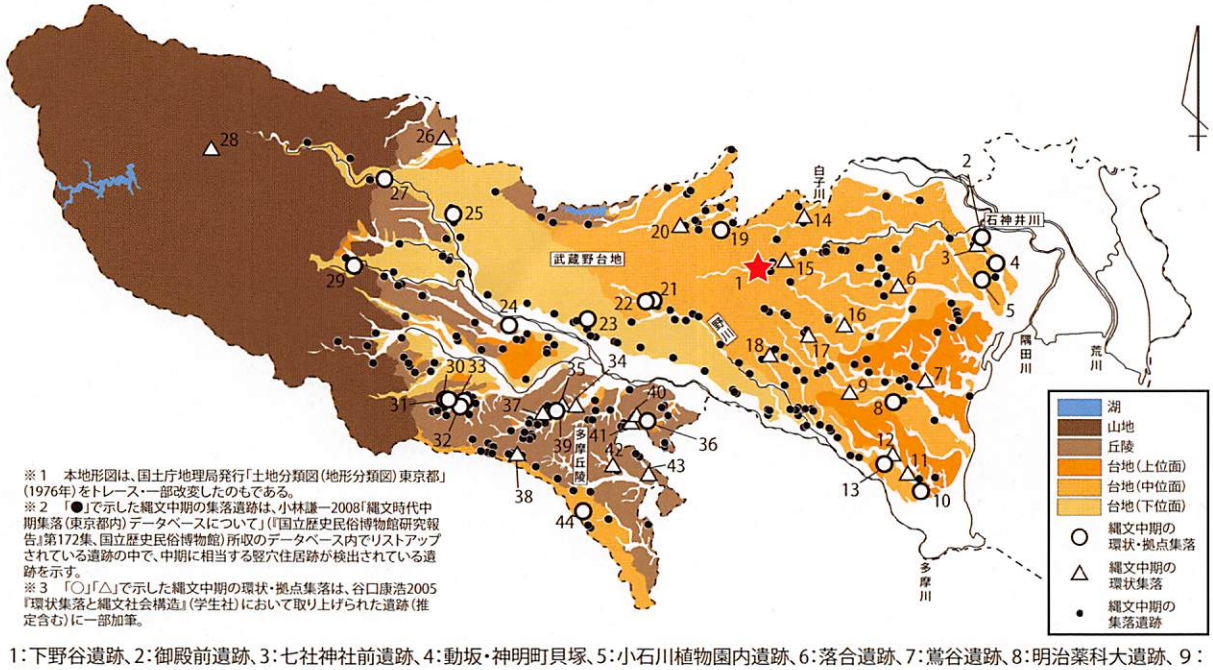


建て替えられ拡張された住居跡

この背景には、温暖で安定した気候条件と、周囲の豊かな自然に適応しながら、その自然に手を入れ、上手に利用することを可能とした技術の革新、さらには、広域なネットワークを発達させ、維持することができる社会の成熟があったものと考えられます。

武蔵野台地を流れる河川流域には多くの集落があり、各河川にはそれぞれ、拠点となるような大集落が、内陸部と海岸部に存在しています。下野谷遺跡は、石神井川最上流域に位置する内陸の大集落であり、丸木舟を使い川を下れば、海辺の集落とも交流ができたでしょう。人や物、情報の移動など、縄文人の活動の拠点となる集落だったと考えられます。

しかし、縄文時代後期になると、自然環境の変化や社会の変化に伴い、遺跡数が減少するとともに、遺跡の立地する場所も変わってきます。このあと、下野谷遺跡を始め、武蔵野台地の内陸部では、人々の活動の痕跡が途絶えていきます。



※1　本地形図は、国土庁地理局発行「土地分類図（地形分類図）東京都」（1976年）をトレース・一部改変したものである。
※2　「●」で示した縄文中期の集落遺跡は、小林謙一2008「縄文時代中期集落（東京都内）データベースについて」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第172集、国立歴史民俗博物館）所収のデータベース内でリストアップされている遺跡の中で、中期に相当する竪穴住居跡が検出されている遺跡を示す。
※3　「○」「△」で示した縄文中期の環状・拠点集落は、谷口康浩2005『環状集落と縄文社会構造』（学生社）において取り上げられた遺跡（推定含む）に一部加筆。

1：下野谷遺跡、2：御殿前遺跡、3：七社神社前遺跡、4：動坂・神明町貝塚、5：小石川植物園内遺跡、6：落合遺跡、7：鷺谷遺跡、8：明治薬科大遺跡、9：桜木遺跡、10：千鳥窪遺跡、11：雪ヶ谷貝塚、12：諏訪山遺跡、13：奥沢台遺跡、14：八ヶ谷戸遺跡、15：扇山遺跡、16：松ノ木遺跡、17：下高井戸塚山遺跡、18：三鷹五中遺跡、19：自由学園南遺跡、20：新山遺跡、21：恋ケ窪東遺跡、22：恋ケ窪遺跡、23：向郷遺跡、24：七ッ塚遺跡、25：山根坂上遺跡・羽ヶ田上遺跡、26：丸山遺跡、27：駒木野遺跡、28：下野原遺跡、29：留原遺跡、30：神谷原遺跡、31：宇津木台遺跡D地区、32：滑坂遺跡、33：小北企向原遺跡、34：TNTNo.67遺跡、35：TNTNo.446遺跡、36：TNTNo.72・796遺跡、37：TNTNo.107遺跡、38：TNTNo.939遺跡、39：TNTNo.471遺跡、40：TNTNo.520遺跡、41：TNTNo.46遺跡、42：野津田上の原遺跡、43：鶴川遺跡J地点、44：忠生遺跡群（A・B）

東京都内の主な縄文時代中期の集落遺跡分布図（作図　大網信良）

暮らしの中の技と美

下野谷遺跡からは膨大な数の土器や石器などの遺物が出土しています。これらの遺物を通して、縄文人が生活していた集落の様子や、集落が営まれた期間、人々の活動・ネットワークの範囲等を知ることができるだけでなく、縄文人の豊かな感性や優れた技に触れることができます。

【勝坂式土器】
ダイナミックな装飾（そうしょく）が特徴的。この土器は、屋内の炉に使用された埋甕（うめがめ）で、深鉢（ふかばち）の下半部を欠いている。
器高 35.3㎝ 口径 46.1㎝

【加曽利Ｅ式土器】
口縁部（こうえんぶ）の渦巻文（うずまきもん）とすっきりとしたプロポーションが特徴的。深鉢。
器高 33.3㎝ 口径23.2㎝

縄文土器はその形や模様などから分類され、特徴となる土器が出土した遺跡名を用い、土器の「型式」としてまとめられ、時期や地域の指標となっています。

下野谷遺跡で、最も多く出土している土器は、縄文時代中期中葉の「勝坂式土器」と「加曽利Ｅ式土器」で、それぞれ、神奈川県相模原市の勝坂遺跡、千葉県千葉市加曽利貝塚のＥ地点が標準となっています。放射性炭素の年代測定によると約4,500年前後といわれています。

縄文時代中期の土器の他にも早期から後期にかけての長い年代にわたる様々な土器が出土しています。また、甲信越や南東北等の土器の影響を受けた土器も多くみられ、人や物の交流を垣間見ることができます。

石器で多く見られるものは、弓矢の先につける石鏃、石を打ち欠いたり磨いたりして作る打製石斧や磨製石斧、木の実などを割り、磨り潰すための石皿・磨石などです。

大量に出土する打製石斧は、土掘り具とも考えられ、住居などの掘削の他、食用植物の根などの掘りあげなどにも使われます。植物は、食べ物としてだけでなく、器や斧の柄やカゴなどあらゆる生活の道具として利用されました。そのため、集落周辺の森はある程度管理されていたと考えられています。

また、石神井川では、大きな石の入手は困難だったようで、石皿には中央に穴があくほどに使いこまれ、破損したものが多く見られます。周囲にある有益な資源を余すところなく役立てる智恵と技術が見られます。また、石鏃に用いられている黒曜石は、伊豆の神津島、信州の和田峠などの産地のものであることがわかっています。

その他、ムラの長などの力や存在感を示す威信財とも考えられる耳飾りや垂れ飾り（ペンダントなど）といったアクセサリー、祭祀に使われたと考えられる石棒などの特殊な遺物も出土しています。

岡本太郎は、縄文土器に優れた芸術性を見出し、有名な「太陽の塔」もそれに触発されたものと言われています。

上段左：磨り石　中央・右：石皿
下段右：磨製石斧　その他：打製石斧

【石鏃】黒曜石以外に近場で産するチャートなども使用されている

上段：耳飾り　下段：垂れ飾り

西集落出土の主な土器

下野谷遺跡をもっと知るには

したのやムラの
したー　のーや

©T&K/ 西東京市

下野谷遺跡をPRしよう！

下野谷遺跡は国の史跡に指定された、貴重な地域の宝物です。ぜひ、大切に保護し活かしていきましょう。
公式キャラクター、したのやムラの「したー」と「のーや」もどうぞよろしくお願いします。

したのやムラを体験しよう！

縄文時代の下野谷遺跡をVR（バーチャルリアリティー）で体感できるアプリ「VR下野谷縄文ミュージアム」が下右のQRコードや西東京市のHP（www.city.nishitokyo.lg.jp）からダウンロードできます。

下野谷遺跡に行ってみよう！

下野谷遺跡公園

地下に西集落の一部が保存されています。クリやクルミの木も植えられており、縄文人が集落として好んだ立地や自然を知ることができます。

所在地：東京都西東京市東伏見6−4

【アクセス】
◆西武新宿線「東伏見駅」南口下車　徒歩7分
◆JR 中央線「吉祥寺駅」北口から西武バス（吉 63・64）
関東バス（吉55）、「三鷹駅」北口から（鷹03）
「東伏見坂上」下車すぐ

下野谷遺跡の出土品を見学しよう！

西東京市郷土資料室

西東京市の歴史や文化などに関する5つの展示室があり、そのうち2つに下野谷遺跡の出土品や写真パネルが展示されています。

所在地：東京都西東京市西原町4−5−6
西東京市西原総合教育施設2階
電話番号：042−467−1183
FAX番号：042−467−1184

【利用案内】
＊開室日　水曜日〜日曜日（祝祭日も開室）
＊開室時間　午前10時〜午後5時
（正午から午後1時までは閉室）
＊休室日　月・火曜日 年末年始（12月28日〜1月4日）
＊入場料　無料

【アクセス】
◆西武新宿線「田無駅」北口から乗車
◆西武池袋線「ひばりヶ丘駅」南口から乗車
西武バス（田44・境07系統）
→「西原グリーンハイツ」下車徒歩3分
（「文華女子中学校高校前」止まりの場合は終点下車徒歩5分）

下野谷遺跡を調べてみよう！

西東京市郷土資料室（上記）
西東京市立図書館（市内に6館1分室あります）
＊地域行政資料室（西東京市中央図書館2階）

下野谷遺跡のこれまでの発掘調査報告書や『保谷市史』『田無市史』など、郷土の歴史にする資料が揃っています。

所在地：西東京市南町5-6-11　（田無駅南口出口から徒歩2分　西東京市役所田無庁舎隣り）
電話番号：042−465−0823

平成29年8月　発行（第4版）
編集・発行　西東京市教育委員会 教育部 社会教育課
〒202-8555　東京都西東京市中町1−5−1
電話　042−438−4079
デザイン　有限会社　CATHAT
印刷・製本　株式会社　誠晃印刷

＊本誌の制作にあたり下記の方々のご協力を得ました。
都築恵美子・大網信良・水口トミオ（順不同・敬称略）

R80
古紙パルプ配合率80%再生紙を使用
VEGETABLE OIL INK